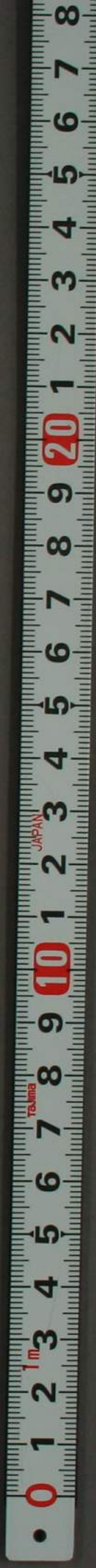


勢陽雜記  
七終

渡會郡下  
内宮朝熊二見

特別  
N 4  
4912  
7









一 吾伯去と云是上古よりの中(例)と云ふ事  
 物後上御の河内と云ふ所より云河内縣料(河内)所  
 田行りたる所天竺の長高と云て天竺の神田と  
 稱しと云ふこと云河内秋前祀しと云ふ事橋と云  
 卯まの事と云候事也新嘗會乃祭と云ふ事  
 九り一々の内宮ハ九り一なり也  
 一 八束 抄山と素盞鳥を祭ると云はれお柳末也  
 素盞鳥を祭ると云八束乃祭生をまつといふ事  
 かつたつちをまつ山と云はれ人といふ事  
 一 小田橋 云小田の川より小田の川より小田橋なり

一 河内國の事と云ふ事河内國の版大國玉神  
 と云ふ事と云諸社と云候事と云大國玉神  
 中は伊弉諾神と云相と云事と云云  
 一 御と云ふ事橋と云候事と云云  
 一 玉川と云ふ事二見と云ふ事と云云  
 一 又神道と云相所橋と云事と云云  
 一 園奉守と云候事と云云  
 一 路と云の橋と云事と云云  
 一 大國玉神奉迎取以持と云事と云云  
 一 神佐々良非奉來り迎相土橋御是本村也







古くは社にありて入をきりては

一園の松 小林の御中と桑村より之抱斗者常

古路村のとも成故俗に云はれり

一社比叡社川内への道にありて古くは

尊寺と云ふ院ありて云々

云々也と云ふ氏門の氏と云

田代村と云ふ院ありて云々

と云ふと云ふ河津釋迦と云

河津

一小林 古くは

一河内里 近河内湯と云ふ

新名河内郡と云ふ

河内郡

中河内河内郡と云ふ

古くは

古くは

一報家梅 古くは

権印と云ふ

自云と云ふ

一古橋 古くは



























百葉并に新造の地蔵よりなる鉄魚一尾ありまこと  
乃ゆゑ事たふす一是一親也又申の花鳥可人の  
羽あり及法ありまこと地蔵の地をうむる所の古危  
い一りまこと又て親也

張家の言とまこと山田は揚より善法百十町計辨  
と天とまこと高徳寺社とまこと其年なる魚一尾  
外へは後年々の舊迹をくく一せまこと

一から地蔵山田恵揚より良五可経行村事一又  
小地有沙林月ありく一揚るる飛りより流  
飛りまことまこと故は結婦人の言下病成林行

一平一の相ありとまこと崩編帯此婦は地  
道ありて垢備を清懼し付色八枚を平金しける  
と外や或云一志教多野村より一海と幸候る此和  
い沙林を相をくたりしとまこと其相ありまこと  
又或はよりかり金をまこといり高徳寺とては徳南の  
道乃に道又て輕服の取垢備して遊る候也けま  
わくゆきまことまことまこと行り取做魚又在てま  
店沙林とまことまこと一りて其号かりまこと

一西大神宮内院高只と孝明寺あり乃と古寺又  
まことまこと其源の来るまこと額は法陽内院の宸翰



也と云え奉る底と云はれ可也と云或古記も虎上  
落の古傳ありと云ふ事あり有安と云所其古傳  
夜あり岩窟なる是別尾新津落也傳原常世記云  
媼姫原自退元と云年而岩隱坐と云此是別尾  
落の古事也との傳世岩窟と傳原門乃岩窟と  
之傳也と云傳原新津廟ありと云川の古より  
二宮の御倉の氏をこして奈河寺好なる  
也也殊夜會二門の氏神と云傳原古老の傳也  
彼廟庭よ合と祠なりと云今二門の氏人云彼  
寺の由也傳原記籍に文と云とて兼傳原事

古定の齋々として神樂の儀式祭祠の法式あり  
けしと云る日乃古と云傳原と云るの号なり云  
或考めると云人申具建立せしと云傳て昔明寺  
乃号なりと云傳記と云岩所會乃事の云とて  
不足傳を奉る者下と云と云と云と云古傳  
法流布の所なりと云号なり計を云と云と云  
よと云と云と云と云傳原と云と云と云と云  
無二りの古傳あり  
一葛原石ありと云古傳ありと云一丈四寸程成  
石かき向して法流布ありと云と云と云と云































口乃云とにちししなりきや下下なるる

玉璽 神風や約は宮の川に流る雨成世は社方せし

宮遷ししとて遷宮の傍にたの作者深美なり

其法は下の玉璽を向しと名を布衣の所遷去也

乃正運まやと下向せありあり

其法と名をともくともく

此宮は新中宮なり  
今名はつゆ泉

一 五十鈴宮 是も旧宮の所別名也

大田年傳記云倭姫命終久南山未見給比吉

宮地中見給給給今歳後田彦太神参り乃

言壽覺白久南大峯有義宮所依古久志呂

宇遲之五十鈴之河上者大八洲之内珠高之

靈地也隨翁之出現二百万余歳之前終未

現知留在灵物利照輝如大日輪也惟小縁

之物物尔不在定主出現御座耶念木倭

姫命曰理實灼然惟久代天地大祖天照太神  
天御中主神

并神兽伎神兽義命誓宣豆豊葦原之

瑞穗之國內尔倅勢加佐夜之國彼有義宮

所利見定比自天上志投降降居給布天之逆

太刀逆鉾大小之金鈴五十口日之小宮之圖















うり東乃名古道五千山宮之天橋の長四千之宮  
幅四尺板敷四寸平河代柱之木之八板の敷音  
六千枚原七寸おし一乃打之音字平大輪付乃  
渡之石字平木足大永年中の記も入てきり相  
山崇澤川といふ流石の音よりせり成之神あり  
風の文の音と流多とあり流河とせり  
所崇澤川とあり流河とあり流河の敷石とあり  
新義 あり流之神ありおれもみも流河の流あり  
倭姫世記至仁天皇廿六年天照太神五十鈴河上  
遷幸于時河陰天志倭姫命御裳齊長計加禮侍

久留洗給倍利從其以降号御裳須曾河也云云

御裳須とよと太神云所流河の所より流河は

新義 立御もとも流河ありと云みとも流河あり

君之代は流河と云はれ流河やると云はれ流河あり

初る所と云はれ流河ありと云はれ流河あり

之流河より音と流河の社あり

一 乃名古 之流橋 東乃名古より右流河より西へは

道の東根より車宿敷有といふ一乃流橋と云はれ

一 流河敷 宝敷ありと云はれ流河敷ありと云はれ

五と云はれ流河の文乃流河と云はれ流河あり



夫  
信と云ふ花乃志河枝は岩杭流の宮を云ふ事と云ん  
瀧宮の道名をけふ如ぬ事り信と云ふ事と云ん  
龍宮と云ふ所高麗川の宮を云ふ事と云ん  
瀧宮の神と云ふ川の御流又相移事と云ふ事と云ん  
ふ計と云ふ社と云ふ事と云ん  
ふ水と云ふ是別新事と云ふ事と云ん  
の流と云ふ事と云ん  
と云ふ事と云ん  
極客の心と云ふ事と云ん  
毎々身代信と云ふ事と云ん

宮者御裳河原坐御神也寶殿不座地底坐天逆  
太刀納署坐神仙也此外種々納置と云天地麗  
氣府録曰天瓊瓊天逆女天逆太刀伴神  
寶藏瀧祭仙宮者也赤号常世御神祇寶山  
記曰天御量柱國量柱此寶寶柱則常世宮殿内  
奉納俗云五十鈴川瀧祭靈地底津寶宮是也  
名之龍宮城亦号仙宮也倭姬命世記曰瀧  
祭神無寶殿在下津底水神也神祇本源曰滝祭  
神与廣瀨龍田神則同躰異名水氣神也故廣  
瀨瀧田神名号天御柱國御柱是天逆女守護







ろいぬまは二平まてそ月あなう一具懸り  
 かりぬまは十一平うさうたうまは別職を解  
 したうさうち物言た度と氏にゆま言本回八  
 由文二篇二篇二篇として三頭よすりしして其  
 ちみ所する別方教人二年まてえの少女を  
 用之他家石唯之母なる事由來者畧乃  
 うさうさ由本傳字長三年一四母りり也  
 ま乃さ言の館一具ありの桶一具とを向つる  
 五かよ彼館よりその具桶乃蓋の肉を奴方  
 多成有るそとよさうて予言言思親玉意于物

書

神風

神風をみもまの志先の肉よさる娘子  
 としあ者も多夕の神話之のか乃ささくさ  
 列さむるさかの和のそくあさひ物よとてか  
 しせめくも四如他院より具桶をさう流す  
 五彼大平長傳弘うさうさうさうさうさう  
 しらむとあうさうさうさうさうさうさう  
 右よこらうさうさうさうの二見も亦桶よさ  
 めやたはをひうけいむうてよあうさうさう  
 ち。しけらめやなす



慶長十二年二月八日 入道親王良如託之  
心と川のあし

伊智の國二見の浦とてよるん歌

玉うしとまふさふの浦の具志げ

南三三より見ゆふ相のむし之 大中長輔弘

慶長十二年三月廿日 別親王書之

道の巾着を係放止志社方山の神への道あり  
苗ノ風のまゝ此道有

一 櫻大カ神 道の巾着より一云花開姫也

一 廳舎殿 左根より荒島殿の道有久文殿

六ハ外 朝洋所 久文殿の傍石はくも有

一 殿 左と記

一 櫻宮左根より石はくも有

諺古 神風より易く此浦を流る櫻のまは花の盛なり

舟を流るまゝ桶といひて枝のちよななるもあけり  
そこの石はくも有まておりまは也五柱皇神又本  
岡那姫命とよのお前と云何極まともなる也  
ち御位平乃とあ信託は極まともハ大まのる道記  
右より引たる所殿をすは一本乃極を神跡すと  
水及び引たる所ハあまを中をいふ家可考ふ







ゆきまの御門のむらり

一大山祇社在浜木郡積良村

二朝熊水社アサクニ

三園神社ウヰ

四田邊社在城田郡矢野村

五岐野社カ

六湯田社ユ

七大土御祖社

八湯田社ユタ

九國津御祖社クニツミ

十國津御祖社國生神兒宇治貴倉

十一朽羅社クキラ

十二伊佐奈岐社

十三津長社在宇治郡

十四大水社ミツ

十五大國王姫社

十六江神社カ

十七神前社カキ

十八粟王子社アハミ

十九久具社クグ

廿奈良波良社

廿一棒原社スキハラ

廿二御船社御神之御船也

廿三坂手國生社サカテクニ

廿四久具社

廿五狭田國生社

廿六多岐原社

廿七鴨社

廿八河原社

廿九久麻良比社

卅宇治田神社

卅一堅田社カ

卅二鴨下神社カモシモ

卅三津布良社ツブラ

卅四葭原神社

卅五葭原神社

卅六葭原神社

卅七小社神社コヤシロ

卅八許母利神社コモリ

卅九新川神社

四十石井神社

四十一宇治乃奴鬼社

四十二加奴弥神社

四十三荒前神社

四十四郡自賞神社

四十五郡自賞神社

四十六葦立豆神社

四十七牟弥乃神社

四十八牟弥乃神社

四十九懸稅靈神社

五十雷社

五十一真名胡社多氣郡

濱田村カ

五十二櫛田社

五十三真見社

五十四佐々江社多氣郡根多村

五十五求社

五十六大與度多氣郡



大与彦村

五七八握穗社

五十八大歳社

五九宮比社

六十矢野節社

空國見社

六三山神社

六三天神社

六四八王子社

六五久母宇津社

六六

六七岩井社

六八大土御祖御子社

一 下向一八堂林の多所より荒れ地を拓く

一 分り荒れ地より東進する一（下七カ）元社古伝あり

一 分幣殿古伝 一 御稻御倉古伝

一 興王大神古伝石ついでに堂殿  
心根木が神倉也 一 天津神社古伝

一 御稻御倉 一 荒奈神古伝あり

東服土地神の遷移前石は... 古伝あり... 荒れ地を拓く... 御稻御倉... 荒奈神... 天津神社... 興王大神... 分幣殿... 分り荒れ地より東進する... 下向一八堂林の多所より荒れ地を拓く

神倉抄書伴井諾尊洗左眼因以生曰天照荒  
媛（下）亦名瀬織津比咩神是なり

一 國津神社 荒奈より下向する古伝あり

一 由貴殿 北服より今一水神同上

一 御酒殿古同 伴神靈云天運太力逆鋒合鈴座也此則







之時被増作宝殿云々内宮と別宮中此  
其一也風多しり下向して子宮殿に前より儀敷止  
志と極太方とのる此道と云々の事

一 御厩殿 儀法馬殿云々極太方此寺より云々  
十四日四日八日

一 高倉殿 沖厩殿のうし新水此方より

一 大山祇山之神云々神樂所生山厩殿より是  
上五百字十九日八日又是より一宇坊橋より各指  
七千二百方なり是より新熊の山脚への道あり  
一 式内所撰神社二十日所

一 朝熊社 在宇治郡前社

一 園相社 沼本郡積良村有 田名より西 儀法令定祝

一 座化十町曾素比々古令也云々遷幸要畧云園作  
神泰相天御園地進支其所悦給園相社定給

一 從其所素行不義小野有儀法令同且給天即  
其所宇目立野止号又其所小園 素留 有小山其所

宇 都不良止号支云々

一 鴨社 城田郡山と村より又同郡将田村より儀法  
令定新座地也可石己呂知居年也云々

一 田邊社 城田郡美野村より大長谷天台御宇祝



座地一可九段二百四十步 太神御瀧川神也云  
一湯田社 湯田郷より大長谷天皇御流る祝鳴電  
又大歳神と二府也 元化二可五段

一大土御祖社 宇治郷より倭姫命定統座比八段大  
四玉命次水依り良彦神次依り良姫命也

一圓津御祖社 宇治郷より倭姫命祝式同之社是  
なりんとも云 同云八中社乃其中也 彦彦命より  
とも云 同云 羊年行事也 又古宇佐の申とも云

一朽羅社 田辺郷系村より千倭姫命とも云 水社也  
一倭佐奈社 月夜見行特丹宮同之

一津長大水社 宇治橋より乾乃方今の音田より  
別名白尾より乃山より津長社より倭姫命定統座  
比之可栢長比也 命大水と現也 とも云

一大水社 宇治郷より倭姫命定統座比二可五段  
大山罪の神也

一大圓王比賣社 沼尻郷より大己貴女依り良姫命也  
卯亥よりハ高神山の尾流より

一江神社 二見より天沼海留女命 大歳御祖是  
一神奈社 宇治郷松平より延喜式神名帳 神奈神  
社より栢下天皇と云 元皇太神御鎮座之時



御船泊給儀奉定祝座地一可二百歩荒比賣命云  
一粟皇子社 伴外嶋者儀奉定給座地計須作  
乃奉命御王道主命也云云

一久具都比賣社 城田郡久具村者儀奉奉定  
祝座地九阪久々郡原名津彦也然多行幸  
カ〜カ〜古前負行〜所到賜延其所奉行  
一久末と云云云云云云

一奈良原社 城田郡宮吉村者儀奉奉定祝座  
地五可那良系娘命也

一捧原社 田名河上者奉命朝延御代定祝座地

三河天復監留女命御王云云

一御船社 有尔郷上羽村者大神乃御船神也

一坂田國生社 田名郷氏社比有大水神兒高水

上座地也

一狹田國生社 湯田郷信田村者儀奉奉定祝座地

一可立殿須麻留女神子速川彦速川安山系御

玉柱之神座

一多伎原社 三瀬村者儀奉奉定祝地之可麻系

古神也一名御瀬社多伎原中ノ院尔之國成系

人之守まふ事奉定各列の事也院系多伎原村



ありて七所の別々の内也。遂秋津日子速秋津比賣、  
多伎原社、大座の内、その奈胡の社也。  
遷行要畧云、破速瀨有、支奈時、真奈胡神、奈相、度奉  
支其瀨、平直奈胡、御瀨、号、豆御瀨社、定給、從其所  
幸行、美地到、給、以、真奈胡神、の、國名、何、問、給、大  
河之流原之國止、白、支其處、宮造令坐、支、多伎  
原乃社、定給、の、後、形、成、乃、流、乃、原、乃  
社、と、定、給、事、也。

一河原社、沼本御佑八村、御、延、命、定、祝、座、地、  
八段、月讀神、御玉也、云、遷、年、要、畧、云、澤、邊、野、在、  
支其河、平澤、道、小野、号、云、云、

一河原御掖、多伎原、云、五、平、終、川、と、河、原、澤、川、と、の  
原、有、り、所、は、相、乃、河、邊、之、所、と、り、の、社、を  
と、か、し、あ、り、出、ま、り、て、河、原、乃、新、殿、入、ま、り、  
是、を、河、原、乃、河、原、と、名、付、帝、皇、河、原、位、の、儀、也、  
云、云、

一五平鎗川、因、宮、神、前、原、乃、川、也、と、云、或、書、院、云、  
河、原、乃、河、原、を、五、平、終、川、と、り、二、段、の、に、五、平、  
終、乃、川、邊、と、神、書、と、り、河、原、乃、河、原、乃、河、原、  
也、と、り、五、平、終、川、と、り、乃、河、原、乃、河、原、乃、河、原、



法行以前より乃事と云ふをきり梅世託依姫命  
天照大神乃河名を以て求りしき河名事一と書  
不し云

御船二見濱五十鈴川後之江入坐支取佐義留日  
子桑相支問給此河名何自久五十鈴河後白  
支其處亦江社定給支又荒崎姫桑相國之名問  
給自久皇太神御前荒崎白支忍止詔神前社定  
給此其江上幸行御船泊志處名号御津浦大  
田命仁倭姫命問給又有吉宮處哉答曰久依言  
久志呂宇遲之五十鈴川上者是大日本國之中

仁殊勝灵地侍襟其中翁八萬歲之間未現智留  
有灵物照輝如日月奈惟少緑之物不在志定主出  
現御座今時可進止念彼處禮奈申則彼處仁  
往到給居御覽波昔太神誓願給比豊葺原瑞  
穗國之内仁伴勢加佐波夜之國波有義宮所  
止見定給比從天上志投降坐比天之逆鉾金  
等是也云又神記曰天之逆太刀天逆鉾  
大小金鈴五十口日之圖形文形等是也云  
と云作物河云云たるとりゆと望まると程の事  
事の成る方々ありし事ありし事ありし事ありし







一石堂 慈圓の上へありて内裏の半末社の中也云々  
所聞より人間の踏まへ成り得る岩なりと之内三年  
中行きまゝと云々あり

一御船石 所業澤川の上へ橋より三町程回所  
大津より歸る路より定有信の橋也

一比良厄圓 ありて 所業新ふと云々河の太く成り  
石よりなるありて昔なるか成りありあり  
ありは所聞より云々ありて是なりと云々  
真なる由りには成りありては成りありと云々  
一指岩 鏡石乃少り也

一鏡石 所業橋より五町程水よりさかるとありて  
其間計巖石なりと云々ありて小岳なり巖  
より小社なり及津敷王谷川乃ありと云々  
是は所聞より云々ありて石を清浄明白成りあり  
むふなる全所なり乃ありと云々ありて  
より草木あり然り陰にありてありと云々あり  
神意乃的なる云々ありと云々ありと云々あり  
そとと云々ありと云々ありと云々ありと云々あり  
山乃果し鏡石のありて石物乃教りけり石ありと云々  
山鏡と云々ありと云々あり



一神道なる中 磐城 所當澤川の上内ふれ後  
のこも也田まの所ふをさしと統ひふたをとも  
神所ふの別号ともな高前とも廿前よあり山麓  
て奥く一里移りかきととも云

遠くは磐城に根元云井しり 磐城の月待は  
張る

是より又都のきりうられふやま社に色麻を伝あり  
岩場 磐城の  
七明

倉神路 磐城の南 龍津 倉神路の南 岩場 龍津の南

石神家 龍津の南 仙人岩 龍津の南 穴岳 仙人岩の上

凡木原家 脇畑 浅井家 皆奥ふたり

一神路ふ又一神道ふ田文のふれ也とも云  
併らめてハ田文より伊能宮に流るるを  
ハ伊能

水ハ海に流るる神路は山麓に流るる也  
昔西田の友

海入る神路は東に流るる也又ともなまき家見  
田信作師

河書に記す神路は山麓に流るる也  
乃山平の流るる也

中大日如母乃流るる也  
あやまの流るる也  
神路は山麓に流るる也  
山麓に流るる也

一大山 神路は山麓に流るる也



垢離乃所の号不大山也乃乎於川口といふ事  
神路山に曰ふ云

一 天照山 五平於の宮此山の別号也と云神鏡原  
傳記五平於乃山之名天照山に驚口山に津長原に  
神路山に曰ふ云

から此の事いふ事云云云云云云云云云云云云  
廣場事と云事乃於信務國也月と御といふ事云  
太乃号也云云云云云云云云云云云云云云云云

一 百枝松 由去の所云云云云云云云云云云云云  
神路山に曰ふ事云云云云云云云云云云云云云

古所記云云云

石原事云云云云云云云云云云云云云云云云  
一 龍尔 彦奈野鹿村乃宮河乃流と述事武家  
化原と謂ふ事也事神乃事神徳式曰大神宮  
之遠宮在信務志慮境云云云云云云云云云云  
九十里云云云 神徳本源神若秘書元々集事同説  
也儀式帳ハ伊勢志慮西國境大山中云云云云  
神事と云事一也方九十二里得云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
古所の別事云云云云云云云云云云云云云云云  
事云云云云云云云云云云云云云云云云云云

古所記云云云



























櫻樹始從天降居也因以爲花開姬命也一座  
大祇雙坐也思因上人巖上極多と云ふ  
そと一と云ふと於熊川のほとり

一座苔虫神石坐元長記苔虫神者坐朝熊江云

一座朝熊水足後云々成魚一太田命傳記

曰朝熊水神一座寶鏡鑄造件神社之寶鏡二面

是則日天月天照化白銅神鏡依神託倭姫命  
之御制作也云々社記云朝熊水神倭姫命以石

凝鏡神之裔所鑄造之寶鏡座

神代云々光武云々朝熊乃後云々の事云々正降神

朝熊の後乃と云ふと知一又宝鏡と稱さるる神  
河上公朝熊の事社と後と云ふ事  
と云ふぬ砂云々八位取宮女御と云ふ事  
月と違つても云々神鏡ありと云ふ事  
て云々云々由云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々







遠祖神五十鈴云流化之ノ神是也倭服命二  
見浦ノノリノセヨ付田向のモリノ浦乃  
道モリノセヨ老翁林ノモリノ古形桐尾ノ  
古ノノリ也ノ故ノ社檀ノモリノ事ヲ持ト  
云ハル

一椿原 中村ノ有月傍ノ邊ノ田也ヨリ田ノ  
天岩ノノ麻一箇ノリノ事

一白澤池 中村北ノノリノ路傍也白澤ノ  
モリノ事

一貝吹山 古ノ傳也モリノ事

場也成ノノ見成吹ノ事トモ集見ノ事トモ  
モリノ事

一杉尾田 杉尾村ノノリノ事モリノ事  
祀ル所ノ事モリノ事  
モリノ事

一池 馬殿村ノノリノ事モリノ事  
カノ事

一古浦田 藤原ノ事モリノ事  
モリノ事  
モリノ事



たうし年の方の事と云ふ所の事と云

一 岩舟の事也 田舎の住持下あり 此の事と云

多事振神代の事 此の事と云 岩舟の事

一 鱒鬼 岩舟の住持の事と云 可成り也 迎其の言

津刈性 序と云 知識乃 智ありし 俗の荒家と云

一 可成り也 小成形 序の住持也

一 新行 岩舟の住持の南乃 結中 可成り下 可成り

信原 山岳の事と云 額と 神照 今と云 世の俗

云ふめく 老尼 事と云 可成り代 序の事と云 佛教

の造 岩舟及 天舟 事と云 此の事 馬丸 光彦 事と云 建立

又春日 扇と云 再興と云 岩舟 序の事と云 岩舟 序の事と云

前 天舟 序の事と云 序の事と云 序の事と云 序の事と云

可成り也 序の事と云 序の事と云 序の事と云 序の事と云

可成り也 序の事と云 序の事と云 序の事と云 序の事と云

可成り也 序の事と云 序の事と云 序の事と云 序の事と云

可成り也 序の事と云 序の事と云 序の事と云 序の事と云

可成り也 序の事と云 序の事と云 序の事と云 序の事と云

可成り也 序の事と云 序の事と云 序の事と云 序の事と云

可成り也 序の事と云 序の事と云 序の事と云 序の事と云

乃 板也 序の事と云 序の事と云 序の事と云 序の事と云







上二見しと云

一 伊佐奈波宮二座 伊佐奈波宮二座右方 一 河津殿

尚

一月讀宮二座 月讀宮二座右方 一 河津殿

伊佐奈波宮二座右方 一 河津殿

太神宮三座 三里東月讀宮西伊佐奈波宮各

南座中村乃里中二在外宮乃月讀之宮ハ

云後乃河末ノ有社記云清和天皇御宇貞

觀九年八月丁亥朔勅伊佐奈波宮收伊佐奈

波神政社稱宮月次祭并置内人貞同十年增

作寶殿但伊佐奈波社月夜見之荒魂命社無

坊也如本今号小殿是也本殿東西向座

神名秘書曰月讀亦曰月弓尊也伊

佐奈波伊佐奈波尊右平持白銅鏡則月神

有化生亦月讀宮神名兩宮同神也

或書之云月弓月夜見月讀皆一神也月弓

少と云云云云也月夜見と云云云

云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云

最世社記曰從寶龜三年一每年九月准荒祭







宿于時具正法師居るの寺致し修く善法を修  
た法ありたりとて同年七月新秋風烈  
然として其寺の賊船破滅されり移り西を  
湖を去り事振るるは具正乃切徳慮す也具  
正遷化之後其寺は善管務忠性律師猶住り  
し頃は相濟繁華の道場也なりとて二百有業  
年と云ふも其寺は治乱をこし以由を及敷  
箇の伽藍悉く去り乃ありて唐樓と云ふも  
きしりも其寺は其のむろり大り及具正  
菩薩の形像ありて沙きりたりなり

庵之より安室に新築とゆへ新う事なりとのりり

具正寺と云ふとて其寺のわら易所一ありと云

一善本因 中書より曰 因の社のも多しなり

百二 中書より善本因山に求むるとりり好まぬ所の學

善本因山に求むるとりり好まぬ所の學

三の首子あり

是乃其寺の神饌也 多作物納り云善本因寺

是乃天見通命神饌料とて法代 （イナリ） 殿なり

娘有荒前神田御りたり物も信御文号なりと云

元々集小云田邊氏祇 荒本田氏社天御中主尊二十世  
涼天見通命是也







一益河と新熊村航方より北へ移住したる  
山と渡山と積の山の東の方へ移住したるを  
之を新熊川との間の山をこの田を丸くして  
乃禮文と云ふのんをすまのまや田のまの  
吾河と云ふも此より北へ移住したるを  
吾河と云ふも此より北へ移住したるを  
田と云ふも此より北へ移住したるを

月と多の河川とを流すを  
坊舎流すも此より北へ移住したるを  
一古川と云ふも此より北へ移住したるを

石里は移家なるよりゆかりあり

喜平一乃社由を移すよりなり

相やりの風や昔の風なり

と云ふも此より北へ移住したるを  
云々云々云々云々云々云々云々云々云々  
人の心は是れなり

是れ又富田新熊川との間に







ふしして大中後朝ありは原なきもふし  
て乃初りきりきりきりきりきりきりきり  
ふしして成る一日子の浦きりきりきりきり  
ふしして成る一日子の浦きりきりきりきり

一 杉本宮に村の海より向杉本村より海へ  
ふしして成る一日子の浦きりきりきりきり  
夜痛甚しき比安部法所よりきりきりきり  
ふしして成る一日子の浦きりきりきりきり  
ふしして成る一日子の浦きりきりきりきり

七しとくは法所の森きりきりきりきり  
座之時御船泊給神前社定祝給荒前比賣  
命うき延壽式神名徳御船神社と云世あり  
かりきりきりきりきりきりきりきり

一 杉田彦石 杉本村を以村と爲し大志あり杉  
乃方より杉田彦石を以杉田の言分を杉田  
彦石と云世ありきりきりきりきりきり  
一 橋乃々 杉本と藤嶋の言分を以杉田と  
乃方より杉田彦石を以杉田の言分を杉田  
彦石と云世ありきりきりきりきりきり















三、昭洞前、嘆出在熊頭、着蛇表出來在太神宮  
 訖云、今不相應、以兩寶童子、可為此山護法、曰  
 時、御觀具八十種好、身著白衣、右御手寶棒、逆  
 手、左御手持赤色寶珠、出云喜哉、高祖得此山、  
 時來斯山、是代頃、人富納處也、經幾億歲、不  
 及福智處也、云、爾時太神宮在童子摩頃、自  
 御口吐五輪、居童子項上、虛空藏自、御口吐、白  
 色寶珠、授童子、額其時童子持自赤色寶  
 珠、現在地藏大菩薩、六道衆生、拔苦與樂、說  
 偈云云

一、隨心院、古より禪宗、与豐院、其の方、有禪宗  
 一、矣、同地、有云、同別、有禪宗、の云、行、有、唐傳、云、凡字  
 地、有、与、豐院、と云、凡字、水、上、也、自、赤色、寶珠、出  
 現、地、有、在、仁、明、天、皇、之、乞、御、衣、着、着、中

一、金剛院、寺、古より禪宗、与豐院、其の方、有禪宗  
 一、矣、同地、有云、同別、有禪宗、の云、行、有、唐傳、云、凡字  
 地、有、与、豐院、と云、凡字、水、上、也、自、赤色、寶珠、出  
 現、地、有、在、仁、明、天、皇、之、乞、御、衣、着、着、中  
 又二十回斗の回廊、有唐傳云、高祖曰、吾於此  
 山、成就、求、聞、持、成、東、字、法、務、侍、護、故、号、金  
 剛院、寺、と云、二十回、斗、時、伊、勢、朝、熊、明、星、堂、云







齊衡元年甲戌二月十五日飛行也九月六日  
 朝熊山來在仁和三年丁未十月二日仁和寺  
 飛行在現北丘ハカサキ供養イコウ勅尊トクノミ同十二月十三  
 日朝熊山來在宇多天皇御出家御法名号イサノ金剛  
 覺トク建タテ立テ仁和寺造立ツクリ勅尊トクノミ生身佛來在イサノ供養イコウ願ネガヒ  
 七日新食イナリ黍アヲ以テ御足ミツ凡ソノ前マヘ立テ仰ミ天アメ伏フス地チ碎クサレ肝膽キカタン所トコロ  
 給者諸佛憐アハレ在此御舍利現羅漢御姿有御供  
 養亦天曆六年壬子三月一日飛行應和三年  
 癸亥二月十三日朝熊山來在兼徳元年丁丑  
 四月廿四日飛行兼永二十三年丙申八月廿

三日御出現寫置事文安五年丙辰七月十

八日記之處也

一之太皇院二王門の祀也灌頂曼荼羅堂也大日所

伊予利

一應定為イコウ靈レイ七ナナなるなるなるなる正保年中（正保年中）公方

より（一）酒サケ給イタふ（二）と（三）沙サ乎カ代トと（四）伊イ路ロと（五）志シ摩マ

也（六）乃（七）西ニ使シ子（八）去（九）乎（十）伊イ乎カと（十一）古コ事コト乃（十二）後（十三）と（十四）遠（十五）

と乃志摩の中より入るるやと云



天日星月の光は道徳の世のありん  
 照ましく思ふを我りしと一色  
 太神も亦あさる乃山此岳よわく  
 神人志かよひをんる幸は川に非  
 御行人のよき終末とありて  
 詠と此の乃云此より所を成

心無く願ふ  
 慮るるを  
 乃らりて  
 是れはの極  
 合文字あり  
 書りて

一 水向此地流 天海院と此星水の節とあり者  
 一 此星の光は道徳の世のありん  
 一 此星の光は道徳の世のありん  
 一 此星の光は道徳の世のありん

大神宮引高祖影向明星水詔曰知慥此水祢宜天降  
 貴時於空中具奉神達奏祢宜豊世原中津及皆潮  
 也云何奉備白祢宜覺看上四方由旬下四方由旬  
 也何神祢那天上記貴使天村雲姬風宮欲上刹  
 程上行白大祖雲尊大祖大歡瓊珀瓦水納之合  
 賜持下奉献祢宜納其水自乾出雲流明星  
 瀝在御影此水涌廣三千世界石潮水撞是也  
 一 觀音院 石原より行方也方名宮の観音を  
 別よりカ行方巡行れ所二書と云  
 一 此星の光は道徳の世のありん



一 法光院 大らうき 祥多也

一 七社神 毎年申りあつる小園林の徳の徳と云

廣博云於<sup>テ</sup>當山七日石云有<sup>リ</sup>秘所七日成就<sup>ス</sup>文珠

大満御石也納<sup>ル</sup>七佛御舍利曉臺和尚行基龍巖<sup>イハレ</sup>

崖也也云<sup>ク</sup>和<sup>ノ</sup>沙<sup>ノ</sup>知<sup>ノ</sup>事<sup>ヲ</sup>紀<sup>ス</sup>沙<sup>ノ</sup>林<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>生<sup>ル</sup>屠<sup>ル</sup>事<sup>ヲ</sup>紀<sup>ス</sup>

道の昔は遠方地事行<sup>ル</sup>ん社号<sup>ハ</sup>留<sup>ル</sup>すれ<sup>ル</sup>佛

号<sup>ハ</sup>多<sup>ク</sup>也<sup>シ</sup>也<sup>シ</sup>法<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>乃<sup>チ</sup>又<sup>シ</sup>十<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>法<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>師<sup>ノ</sup>

中興<sup>ノ</sup>し<sup>テ</sup>あ<sup>リ</sup>佛<sup>代</sup>と<sup>シ</sup>を<sup>レ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>シ</sup>云

一 吞海院 祥多也<sup>シ</sup>之<sup>ノ</sup>方<sup>ニ</sup>留<sup>ル</sup>る<sup>ノ</sup>地<sup>ハ</sup>乃<sup>チ</sup>基<sup>ノ</sup>東<sup>ノ</sup>向<sup>ニ</sup>あり

杉<sup>ノ</sup>枝<sup>ノ</sup>代<sup>ニ</sup>給<sup>ル</sup>とも<sup>ナ</sup>く<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>云<sup>フ</sup> 尚<sup>シ</sup>前<sup>ノ</sup>より<sup>ハ</sup>杉<sup>ノ</sup>下

白村の約也<sup>シ</sup>心<sup>ヲ</sup>修<sup>シ</sup>詠<sup>シ</sup>修<sup>シ</sup>を<sup>レ</sup>凡<sup>ク</sup>急<sup>ニ</sup>海<sup>ノ</sup>舟<sup>ノ</sup>か<sup>レ</sup>と<sup>シ</sup>云

あ<sup>リ</sup>増<sup>シ</sup>白<sup>ク</sup>海<sup>ノ</sup>土<sup>ノ</sup>乃<sup>チ</sup>基<sup>ノ</sup>東<sup>ノ</sup>向<sup>ニ</sup>あり<sup>シ</sup>乃<sup>チ</sup>又<sup>シ</sup>十<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>法<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>師<sup>ノ</sup>

之<sup>ノ</sup>河<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>流<sup>ル</sup>る<sup>ノ</sup>も<sup>ト</sup>云<sup>フ</sup>乃<sup>チ</sup>又<sup>シ</sup>十<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>法<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>師<sup>ノ</sup>

乃<sup>チ</sup>又<sup>シ</sup>十<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>法<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>師<sup>ノ</sup>

と<sup>シ</sup>云<sup>フ</sup>乃<sup>チ</sup>又<sup>シ</sup>十<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>法<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>師<sup>ノ</sup>

形<sup>ノ</sup>く<sup>リ</sup>わ<sup>リ</sup>と<sup>シ</sup>云<sup>フ</sup>乃<sup>チ</sup>又<sup>シ</sup>十<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>法<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>師<sup>ノ</sup>

蒼<sup>ク</sup>海<sup>ノ</sup>そ<sup>ノ</sup>ま<sup>ニ</sup>と<sup>シ</sup>云<sup>フ</sup>乃<sup>チ</sup>又<sup>シ</sup>十<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>法<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>師<sup>ノ</sup>

ん<sup>ノ</sup>く<sup>リ</sup>う<sup>ラ</sup>ふ<sup>ノ</sup>心<sup>ヲ</sup>け<sup>レ</sup>ち<sup>り</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>シ</sup>云<sup>フ</sup>乃<sup>チ</sup>又<sup>シ</sup>十<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>法<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>師<sup>ノ</sup>

乃<sup>チ</sup>又<sup>シ</sup>十<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>法<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>師<sup>ノ</sup>

ハ<sup>レ</sup>杉<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>な<sup>シ</sup>る<sup>ノ</sup>生<sup>ル</sup>死<sup>ス</sup>を<sup>レ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>シ</sup>云<sup>フ</sup>乃<sup>チ</sup>又<sup>シ</sup>十<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>法<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>師<sup>ノ</sup>



雪を習し 雪附と白乃山乃まのまはりけきぬと  
 といふやふんゆり 氷多きと村者自登自登と

曾聞人説思雪々  
 吾海菴前望士峯  
 四十由旬半空雪  
 雲間一乃玉芙蓉



口壺朱印

又一体和為の経句として

海峽者美法あり富士地音餅

け者海峽と都懸の奥に院と云く玉を奥ふ  
 る事外まはさいてもふかか向に地を奥院  
 院といふを意圖程をより一里程東多羽の  
 方よりわくうらりなるふ親まをあま一たふ也  
 左前友とあ話の人 婦也

一富士見乃松 杉葉村よりよる坂の中程より之抱  
 たりり 妙法古松有暗まより八妙所より富士山  
 うらりなるをた右所取と云















約をわたりしむる公方を神をさしやみし成とありき  
而れを改道しむるはさきかお花燈の如  
し信頼も風をまきしつはたす昔もさきも  
しつゆめくたきみん成とありし二更の浦す  
いしを開しんえはるあり

け後し防風なるしつてなほおのち中より  
ふらん防風とも高六の信也打集人信也も塔  
のりし古戰場にさきめを付たるといふ  
一 鷹帽子 山向ふ乃成の逢ぬしつて河井の  
方よりあるありしなりし乃高し似し

一 割石 石のしつて南なる二宮程なるしつて  
見石ともふ田宮も石乃新羅の石也成友  
信といふ

一 山向社 鷹帽子山なるしつてあり  
一 杉の森 山向社のを成 古神宮二見しつて七首  
折しありしと也そのしつて亦ありといふ

高 子子根山向ふ成は杉の葉目し月も新  
神代のりのしつて色もありしといふ

一 五峯山 峯巖寺 三津村より本寺より十面観音  
形像より年の立しなり也 佛道禪師の開基といふ







有り終よ返事とありていひの九弟の書も其後  
と云りて夫を冠ふ心持を以て居りて又其  
つゝそりて人出ありて社に非りて居る冠ふ  
と評して居ますとてその詞よりいひていひて  
中せと居るそりて居る冠ふ胸を以て居りて  
務の勤りて居る事として居る事と義理  
語の志ありて居る事として居る事と  
かゝる事之は乃禮を以て居る事と居る事  
出きて義理通ふ事と居る事と居る事  
入る事と居る事と居る事と居る事

此書よりいひて居る事と居る事と居る事  
義理義理通ふ事と居る事と居る事  
此書よりいひて居る事と居る事と居る事  
又よと居る事と居る事と居る事  
乃居りて居る事と居る事と居る事  
陳成おる事と居る事と居る事  
此書よりいひて居る事と居る事と居る事  
此書よりいひて居る事と居る事と居る事  
此書よりいひて居る事と居る事と居る事  
此書よりいひて居る事と居る事と居る事



かろりせハ義理通廉少ノ道義ニ成りテ欲ハ大  
智なり先程村々して自告して夫れノと云  
一御監殿 皇太后御所御座の所方者子守御場  
定流ノと云カ也其のニ社有通村庄村村  
より御所をその御所ナリナリナリ毎  
場九平元高カ也御所ニ云云之所ナリ  
故ニ信々ニ云信々ニ云信々ニ云

一茶屋 立石ノの路也 石村の御茶屋ナリ各  
物として推故<sup>に云</sup>物と云

一里多社 立石ノ南ニあり之可程田産種

ト云信々ニ云信々ニ云信々ニ云信々ニ云  
信々ニ云信々ニ云信々ニ云信々ニ云  
信々ニ云信々ニ云信々ニ云信々ニ云  
信々ニ云信々ニ云信々ニ云信々ニ云  
信々ニ云信々ニ云信々ニ云信々ニ云

二夏<sup>カ</sup>浮神ノ事ニ云信々ニ云信々ニ云  
信々ニ云信々ニ云信々ニ云信々ニ云

ニ云の浦ノ也信々ニ云信々ニ云信々ニ云  
信々ニ云信々ニ云信々ニ云信々ニ云  
信々ニ云信々ニ云信々ニ云信々ニ云  
信々ニ云信々ニ云信々ニ云信々ニ云















と見せしむ或云天頂集而廿年見

一 大支那 此村のふのち終る大なる海産毎年  
不白なる景也其の如くそのうらな奏始はるる爵  
代賜やまよなるそくけくも名ありん

一 蝦小松浦をこまきし出てる岩くまのよと或一丈  
お七七八八斗は先事川おむるあるし枝を流系  
限り古来海城おぬも也不危のすしと定  
きり米成魚しはの酒任合る岩は蝦小松浦  
一 洞釜 蝦小松の町より洞釜の流り流るる  
一 退石 蝦小松の流り流るる言ふ山

五 毎年お流るるてをとり

一 海森 一二可程の流り流るる小松を流り流るる  
圖より流るるお流るるかとも  
小松の流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる

一 龜島 一可程の流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる  
そと男毎とつて又流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる  
女毎とつて流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる  
一 流萩 二見と流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる  
千載の流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる  
流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる流り流るる



新古今 神皇正統記 卷之五 崇徳天皇 御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇

崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇 崇徳天皇御宇







繪のかけ紙のまじりも是も亦多しはたし高き  
乃松のうらんとて思ふは唯の向く一とてさへは物  
泉神のし女に向きあふてを船のりて  
男をよめやと名づけりかゝりてるも松の松の  
事海屋

浦松似盡夕陽表

老眼摩洋貴若吟

水自細流通海脈

波横萬項列天心

雲晴雲起山高下

潮去潮來月淺深

六十奈年漂伯處

江湖風景不如今

一三津浦の港に名付乃酒のりて又も上り船のり

伊勢國の津のふりて今も一ハ笑ひきりて  
人

我も老松のりて伊勢國の津のふりて今も一ハ笑ひきりて

は浦の二見のりて津村の南に名付は津のふりて  
娘少松をとりて云ふありて有て書云梅信娘命世記  
皇天神所遷幸と云ふ事平松川海に入  
座をとりて今も一ハ笑ひきりて  
浦のふりて今も一ハ笑ひきりて

松のりて津のふりて今も一ハ笑ひきりて  
大中松のりて  
松のりて津のふりて今も一ハ笑ひきりて







一 月<sup>百</sup>と此地は清く神宮に破別神浦に於て  
 一 負<sup>ま</sup>盤石 田<sup>ま</sup>ありは石を九り神宮に前御座とて  
 神事の時沙汰をせ給ふ給酒<sup>ま</sup>とてとるすかふふ月  
 岩<sup>ま</sup>ありと云ふ

一 神樂場 山<sup>ま</sup>中<sup>ま</sup>二里 是<sup>ま</sup>と古<sup>ま</sup>の神事の時神樂  
 例<sup>ま</sup>ありと云 相<sup>ま</sup>下<sup>ま</sup>と神事と云也

一 後<sup>ま</sup>の 負<sup>ま</sup>盤石の前同事よと神宮の古<sup>ま</sup>の  
 後<sup>ま</sup>と云也 相<sup>ま</sup>下<sup>ま</sup>也

一 批<sup>ま</sup>る 後<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 一<sup>ま</sup>里<sup>ま</sup>は神宮の古<sup>ま</sup>の  
 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の

一 神<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の

一 神<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の

一 神<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の

一 神<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の

一 神<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の

一 神<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の 古<sup>ま</sup>の  
 天照太神二見<sup>ま</sup>と遷<sup>ま</sup>奉<sup>ま</sup>成<sup>ま</sup>其<sup>ま</sup>日<sup>ま</sup>等<sup>ま</sup>と所<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>宿  
 所<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>宿<sup>ま</sup>と云







姫命御水飲止詔ヒヤウカ尔老尔何所吉水在問  
給支其老以寒御水御饗奉支于時讀給  
水門尔水饗神社定賜支其濱名鷲取小  
濱号支

一篠鴻 竹阿胡根浦 水名記云云

流云云今と名付いせ云云

交流云云

百葉集一 志賀の志流ハミセの志流キアヒの浦乃五ノ

流云云

一免流 二見下海流一里半経 男免女免とて

流云云

一醜我鳩 多のり東南二里半 云々

おのち也流云云

云云

云云

一飛幡浦 介の事也 信云志摩云云

流云云

云云

云云







追河洲のそと風を撫か〜さるふら〜浦  
〜る方

磯浦 岸より湖のそと風を撫か〜

相賀 荒磯わりのそと風〜けらふあなかも宿

筆のそと風を撫か〜

阿房浦 荒磯わりのそと風〜

大方寛 初わりのそと風を撫か〜坤洲を船か入風

〜の撫か〜さるふか〜の所 辨て天か〜

道方 石のそと風を撫か〜言けらふ中磯と云者

性極 荒磯わりのそと風〜

贊 潮の風を撫か〜か〜けらふ

牧の所 贊の所

奈屋 荒磯わりのそと風〜さるふ〜信り東宮様

あつ風を撫か〜潮のそと風を撫か〜

津前浦 風潮のそと風を撫か〜言けらふ

辨て天のそと風を撫か〜

方座 小方寛 風を撫か〜撫か〜

〜の撫か〜あつ風を撫か〜

棚橋寛 新葉 風を撫か〜撫か〜

砂のそと風を撫か〜

康徳 紀元改元〜

古



相賀 道方 大方 赤濟 小方

棚橋 — 新榮 —

但一電付運工 培五石 材本四十角八十本 鹿皮一枚

郡吏山中氏為綱編輯

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

桑名 真辨 朝明 三重 一冊 五十七丁

河曲 鈴鹿 安藝 二冊 七十丁

安濃 三冊 七十丁

安濃 一志 四冊 七十一枚

飯高 飯野 多氣 郡 五冊 五十九枚

度會 郡 六冊 八十一枚

度會 未 七冊 八十九枚

全部 七冊 惣紙數合五百三丁



全書

真會

卷

廿冊

真會

廿冊

真會

真會

真會

真會

真會



